

無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の説明書

説明日: 年 月 日

患者氏名:

病 名: 正常妊娠

・治療・検査・手術等の名称: 無痛分娩 (分娩進行中の硬膜外麻酔)

・実施予定日 年 月 日

【無痛分娩の目的】

無痛分娩とは、分娩進行中の痛みを和らげる目的で麻酔を使用する分娩方法です。痛みを完全に取り除くことではなく、軽くすることが目的です。

【対象者】

- (1) 無痛分娩を希望する妊婦さんで、当院の基準を満たす方
- (2) 医学的な理由(妊娠高血圧症候群、心疾患や脳血管疾患の合併など)で、分娩進行中の痛みを和らげることが望ましいと考えられる妊婦さん

【無痛分娩の方法】

無痛分娩にはいくつかの方法がありますが、当院では、もっとも一般的で母児への影響が少ないとされる「硬膜外麻酔」を用いて鎮痛を行います。

硬膜外麻酔とは、背部から硬膜外腔というところにカテーテルを留置し、そのカテーテルから麻酔薬を注入して痛みを和らげる方法です。胸より下の範囲の感覚が鈍くなり、力も入りづらくなります。麻酔薬の量が増えると鎮痛効果が増しますが、下半身にまったく力が入らなくなり分娩に支障を来す場合があります。よって、妊婦さんの自覚症状や赤ちゃんの状態、分娩の進行具合に応じて、麻酔薬の量を調整します。

硬膜外カテーテル挿入後は、誤嚥などの危険防止のため飲食できません。姿勢により麻酔の効果範囲が偏る場合がありますので、医療スタッフの補助により適宜体位の変換を行います。また、無痛分娩中は排尿がしづらくなりますので、定期的に導尿を行います。

硬膜外カテーテルは、分娩終了後に抜去します。

【副作用および合併症】

<よくみられるもの(10～30%程度)>

- ✓ 悪心、嘔吐
- ✓ 全身の痒み
- ✓ 感覚障害、運動障害(下肢のしびれ、力の入りにくさなど)
- ✓ 発熱

- ✓ 血圧低下、それに伴う胎児心拍数モニタ異常
- ✓ 分娩所要時間の延長
- ✓ 機械分娩(吸引分娩や鉗子分娩)の増加

<まれなもの>

- ✓ 麻酔薬のくも膜下注入(数百例に 1 例程度)

硬膜外カテーテルがくも膜下腔に迷入した際などに、麻酔薬がくも膜下腔に入ることにより、麻酔効果が強く出ます。突然足がまったく動かなくなる、血圧が急に低下するなどの症状が現れます。重症の場合(高位脊髄くも膜下麻酔)、意識障害、呼吸循環不全など生命に関わる症状が出現するため、救命救急対応が必要となります。

- ✓ 局所麻酔薬中毒(数千例に 1 例程度)

薬剤の血中濃度が高くなりすぎることがあります。耳なりや口のしびれなどの症状が出ます。重症の場合は不整脈や意識障害、呼吸循環不全など生命に関わる症状が出現するため、救命救急対応が必要となります。

- ✓ 硬膜穿刺後頭痛(1%程度)

硬膜外カテーテル挿入時などに硬膜に傷がつくと、しばらく頭痛が続くことがあります。水分補給(飲水や点滴)、鎮痛薬の使用などの対症療法を行い、通常は 1 週間程度で改善します。程度がひどい場合や症状が長引く場合は、硬膜外自家血注入療法(ブラッドパッチ)などの治療が必要となる場合があります。

- ✓ 神経障害(数百例に 1 例程度)

麻酔終了後も、臀部や下肢のしびれた感じ、足の動かしにくさが残る場合があります。通常は数日～1 ヶ月程度で改善します。ごくまれに(数万例に 1 例程度)、長期にわたり神経障害が残ることがあります。

- ✓ 硬膜外血腫(10 万～15 万例に 1 例程度)

硬膜外腔に血液が貯留し脊髄神経を圧迫することにより、下肢の麻痺や膀胱直腸障害が起きることがあります。血腫除去術が必要となることもあり、術後も症状が改善しないことがあります。

- ✓ 硬膜外カテーテル遺残(数万例に 1 例以下)

硬膜外カテーテル抜去時にカテーテルが断裂し、一部が体内に残存することがあります。残存の程度や位置によってはそのまま経過観察とする場合もありますが、感染や疼痛、神経障害の原因となる可能性が高い場合は、手術により摘出します。

これらの合併症やその他の偶発症が発生した場合、その処置や治療の経費は、患者さんの保険診療による負担となります。

【無痛分娩を行えない場合】

当院では、予め日程を決めた計画分娩での無痛分娩を原則としています。予定外に陣痛がきた場合や、分娩が夜間におよぶ場合など、カテーテル挿入や麻酔薬の注入を行えないことがあります。

また、以下の状態を認める方では、無痛分娩を行えないことがあります。

- ・ 採血検査で血小板減少や血液凝固異常を認める場合
- ・ 背部の皮膚、特に穿刺部周囲の皮膚に炎症を認める場合
- ・ 背骨に変形がある場合

- ・ 全身性の感染症を起こしている場合
- ・ 局所麻酔薬のアレルギーが疑われる場合

無痛分娩開始後に、カテーテルが抜けてしまった場合や効果が不十分な場合など、カテーテルの入れ替えが必要となることがありますが、時間帯や分娩進行状況によっては入れ替えを行えない場合があります。

【無痛分娩の費用】

硬膜外カテーテルを挿入した時点から、無痛分娩の費用が発生します。通常の出産費用とは別に自費診療による負担が必要となります。無痛分娩の進行中に何らかの理由で緊急帝王切開術となった場合、手術は保険診療として行われますが、手術前に行った麻酔管理の費用は、患者さんの自費診療による負担となります。

医学的な理由で必要とされる硬膜外麻酔に関しては、保険診療として行われる場合があります。

【同意の撤回】

同意書を提出された後も、いつでも同意を撤回することができます。

【セカンドオピニオン】

当院での無痛分娩の方針を説明しましたが、他の医療機関、医師の意見も聞いてみたいというご希望がありましたら、お申し出ください。当院で施行された検査資料をご提供いたします。

【その他】

異常反応出現例および年間の無痛分娩に関する統計データは、個人を特定できる情報を除いた情報として関連学会に届け出ますことをご承知おきください。

*連絡先

無痛分娩について質問がある場合は、下記までご連絡ください。

〒187-8510 東京都小平市花小金井 8-1-1

公立昭和病院 産婦人科 電話:042-461-0052